

IV 調查結果分析

1. 男女平等意識について

(1) 男女の地位の平等感

問1. あなたは、現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

- ①家庭生活で ②職場で ③学校教育の場で ④町内会や自治会等の地域社会で ⑤政治の場で
⑥法律や制度の上で ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで ⑧社会全体で

男女の地位の平等感について、「学校教育の場で」と「法律や制度の上で」を除く分野で『男性優遇』が強く、女性の方が男性よりも強い不平等感を持っている。

【全体】

男女の地位について、『男性優遇（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）』と感じている分野は、「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」が72.1%と最も高く、次いで「⑤政治の場で」69.7%、「⑧社会全体で」63.8%、「④職場で」57.7%、「①家庭生活で」50.6%と続いており、5分野で過半数が『男性優遇』と感じている。

『平等（平等になっている）』と感じている分野は、「③学校教育の場で」が49.3%と最も高く、「⑥法律や制度の上で」38.0%、「④町内会や自治会等の地域社会で」33.3%と続いている。

『女性優遇（「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）』と感じている分野は、「②職場で」7.9%、「①家庭生活で」7.7%、「⑥法律や制度の上で」6.4%と続くが、1割にも満たない。

【性別】

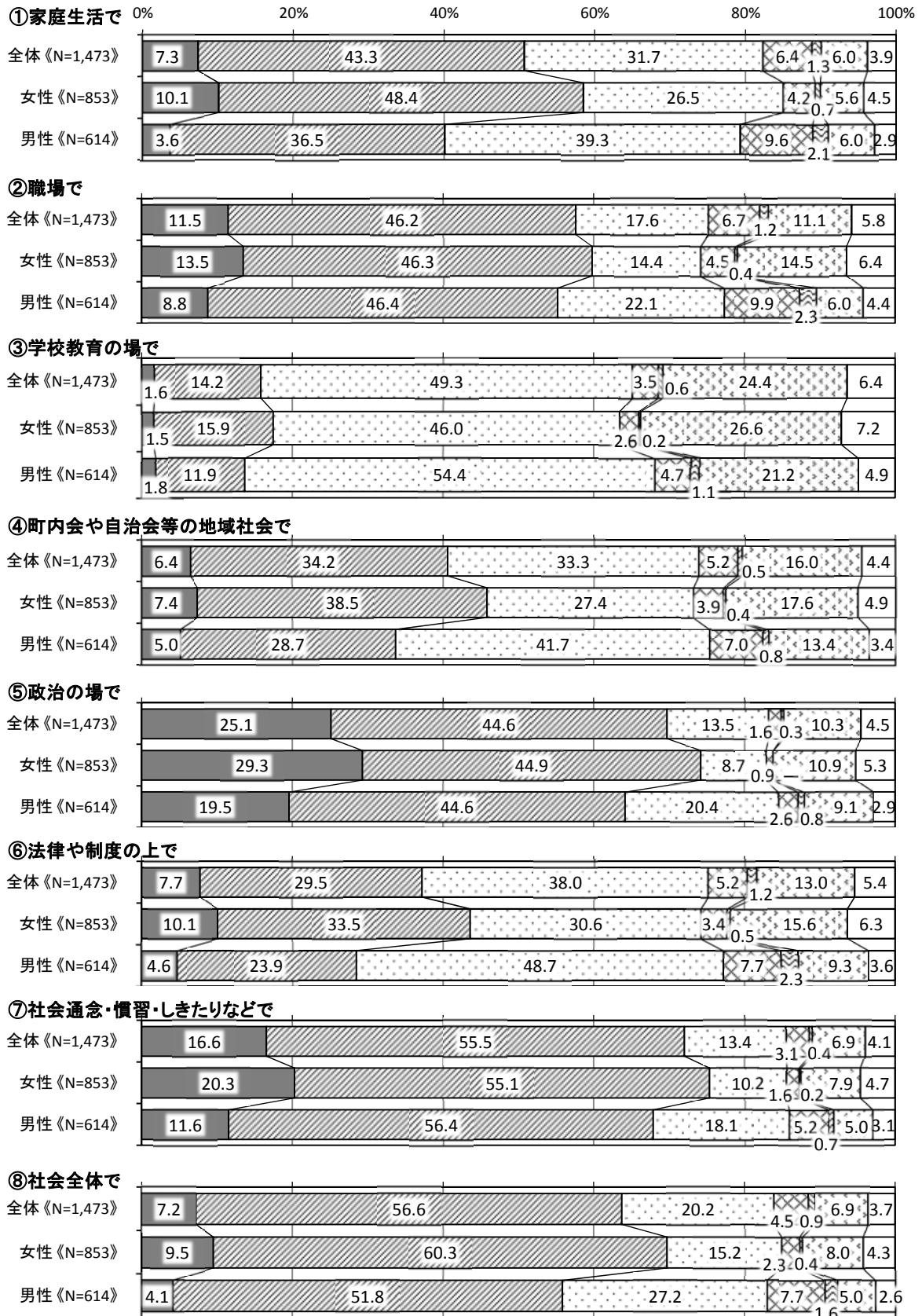
①～⑧の全分野において、女性の方が男性よりも『男性優遇』と感じている。

また、『男性優遇』と感じる比率の順位は、男女ともに、「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」、「⑤政治の場で」、「⑧社会全体で」、「②職場で」、「①家庭生活で」、となっている。

『男性優遇』と感じる比率について、男女差をみても、「①家庭生活で」18.4ポイントと最も高く、男女間での意識の相違がみられ、次いで「⑥法律や制度の上で」15.1ポイント、「⑧社会全体で」13.9ポイント、「④町内会や自治会等の地域社会で」12.2ポイント、「⑤政治の場で」10.1ポイントとなっている。

逆に、『男性優遇』と感じる比率について、男女差が低い分野は、「③学校教育の場で」3.7ポイント、「②職場で」4.6ポイント、と5.0ポイント以下の差となっているが、「③学校教育の場で」については男女ともほぼ50.0%が「平等になっている」と感じている。「②職場で」については男女ともに55.0%以上が『男性優遇』と感じている。

男女の地位の平等感【全体、性別】



男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等になっている どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が非常に優遇されている わからない
 無回答

①家庭生活で

「家庭生活」における男女の地位について、すべての年代で、男性よりも女性の方が『男性優遇』と感じている。

30歳代男女の意識差は31.4ポイントと大きくなっている。

【性・年代別】

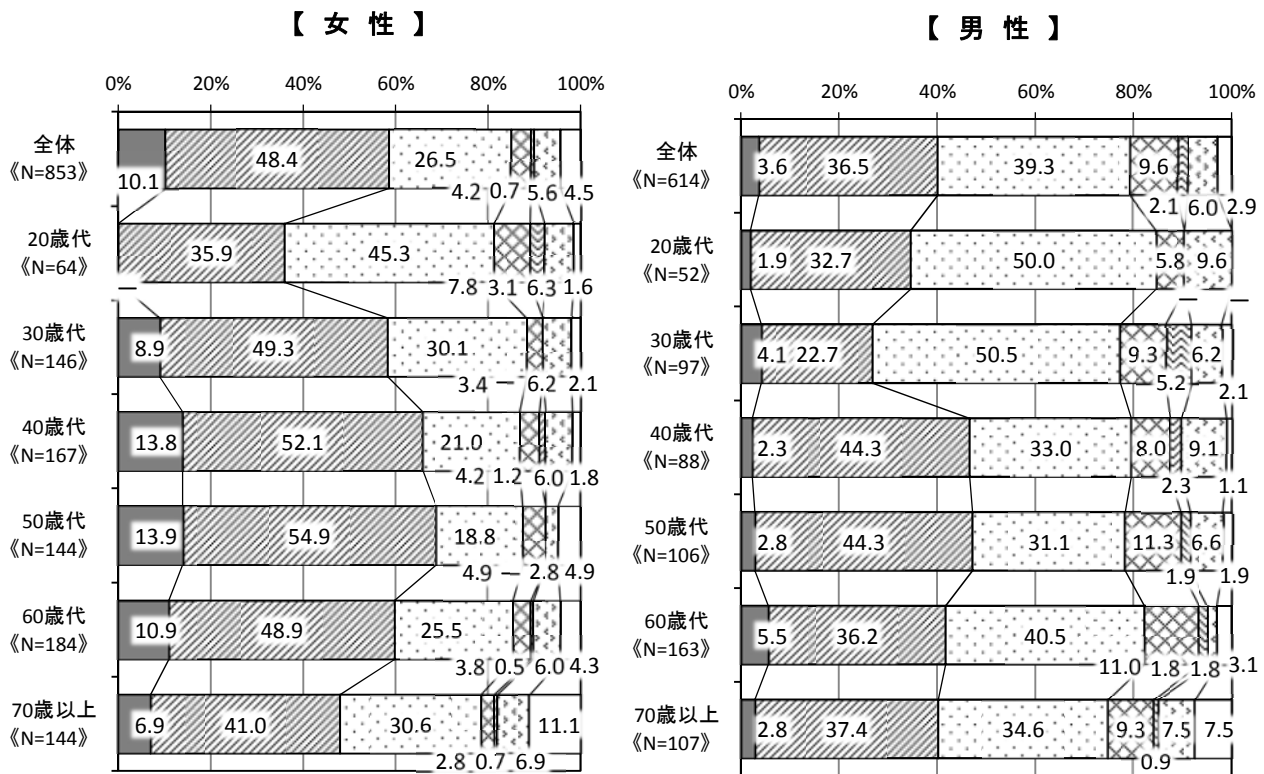
「家庭生活」における男女の地位について、女性では30歳代から60歳代の約6割以上が『男性優遇』と感じており、男性は40歳代以上が『男性優遇』と感じている。

20歳代では、男女ともに『男性優遇』と感じている割合は約35.0%と低い。また、『女性優遇』と感じる女性は10.9%で、他の年代より高くなっている。

男女ともに、50歳代から20歳代へ年齢が若くなるに従い、『平等』と感じている割合は増加傾向にあり、20歳代の女性は45.3%、男性は50.0%と高くなっている。

「家庭生活」における男女の地位は、世代間において徐々に意識が変化してきていると考えられる。

男女の地位の平等感 ①家庭生活で【性・年代別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等になっている
- ▣ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- ▤ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▥ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

②職場で

「職場」における男女の地位について、30～50歳代の女性は、同年代の男性と比べ、『男性優遇』と感じる割合が高い。

【性・年代別】

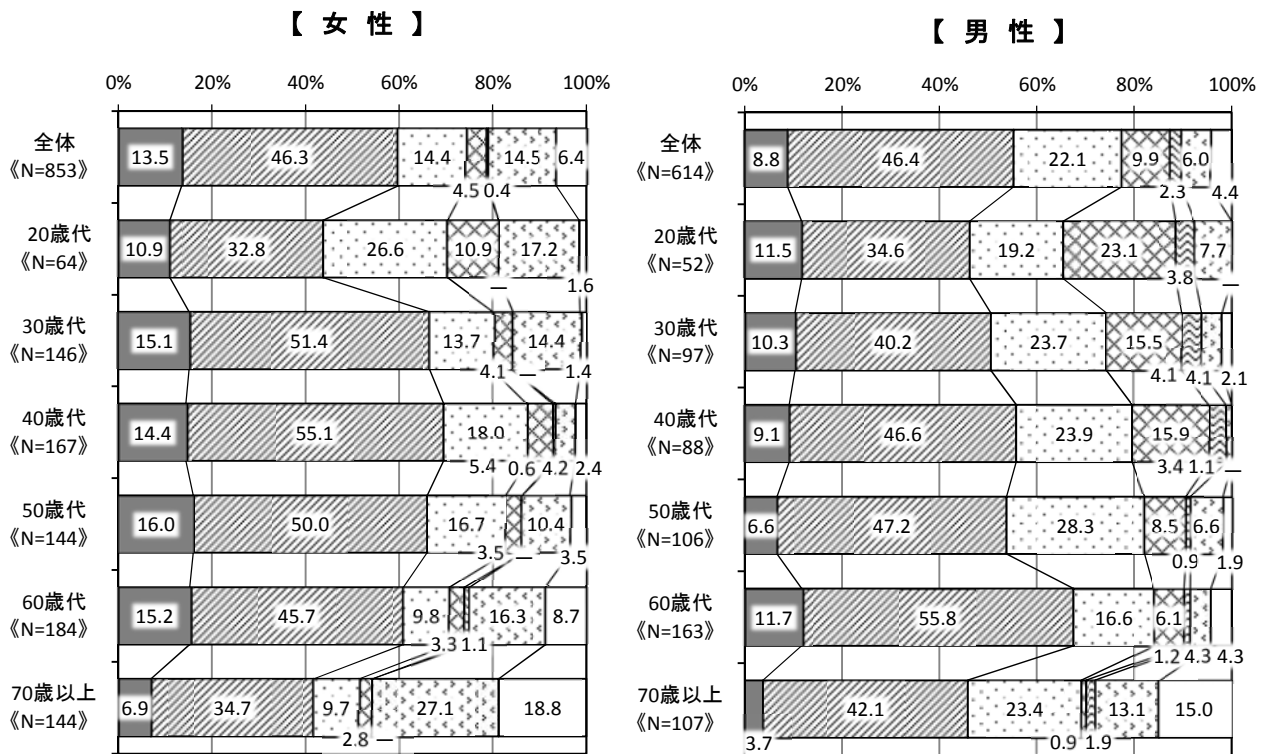
「職場」における男女の地位について、女性では30歳代から60歳代の6割以上が『男性優遇』であると感じているが、20歳代女性では43.7%と急激に低くなっている。

男性では、60歳代から20歳代へ年齢が若くなるに従い、『男性優遇』・『平等』が減少し、『女性優遇』が増加しており、20歳代では『平等』19.2%より『女性優遇』26.9%が上回っている。

20歳代では、男女ともに『男性優遇』が45%前後となっている。

また、70歳以上では、男女ともに他の年代に比べ「分からない」の割合が高いが、これは就労している人が少ないことが影響していると考えられる。

男女の地位の平等感 ②職場で【性・年代別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等になっている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- ▩ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

③学校教育の場で

「学校教育の場」における男女の地位について、他の分野に比べて、『平等』と感じる割合が高くなっている。

【性・年代別】

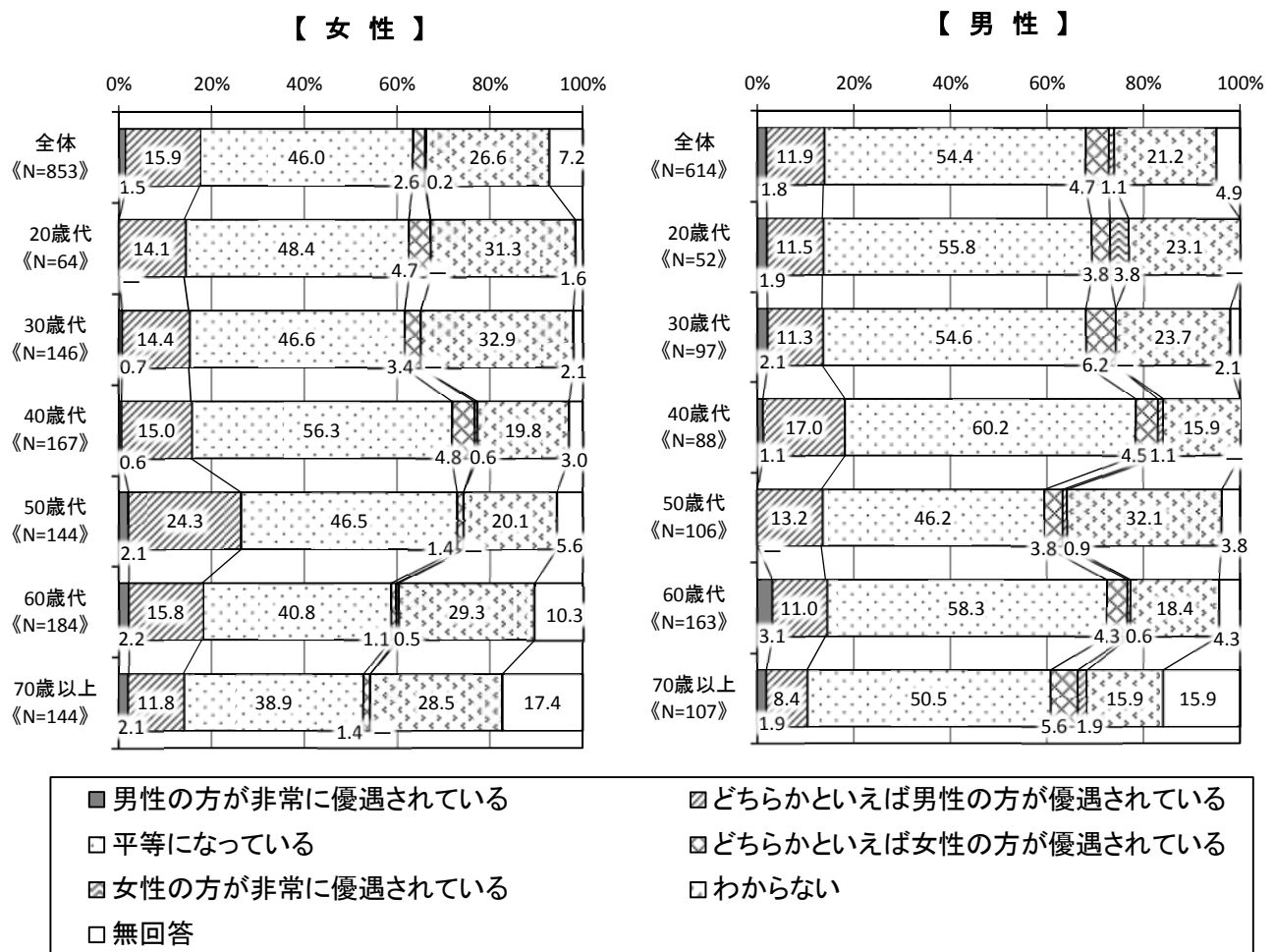
「学校教育の場」における男女の地位について、男女ともに他の分野に比べて『平等』であると感じる割合が高く、女性全体で46.0%、男性全体で54.4%となっている。

50歳代を除いた20歳代から70歳以上の男性では5割以上が『平等』と感じている。

また、「わからない」と回答した割合も高く、女性全体で26.6%、男性全体で21.2%となっている。

他の分野に比べて『男性優遇』と感じる割合は低いが、50歳代では女性の方が男性より13.2ポイント上回っている。

男女の地位の平等感 ③学校教育の場で【性・年代別】



④町内会や自治会等の地域社会で

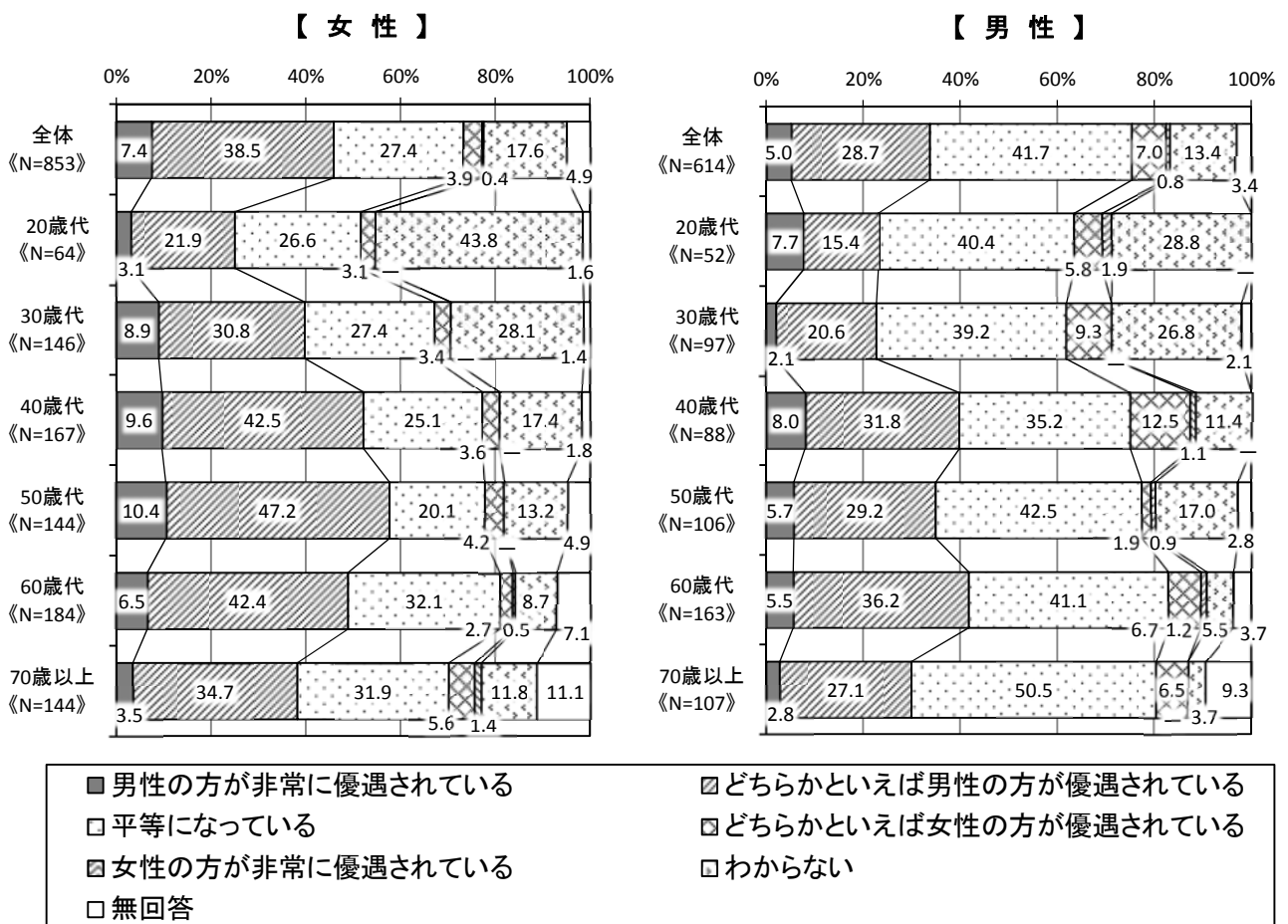
「町内会や自治会等の地域社会」における男女の地位について、男女間の意識の差が大きい。特に、50歳代では、女性が男性よりも『男性優遇』と感じる割合が22.7ポイントほど高くなっている。

【性・年代別】

「町内会や自治会等の地域社会」における男女の地位について、女性では40歳代と50歳代で5割以上が、男性では40歳代と60歳代で約4割が『男性優遇』と感じている。男女差も30歳代から50歳代で10ポイント以上の差があり、50歳代で22.7ポイントと特に高くなっている。

また、「わからない」との回答は、女性の20歳代で43.8%、30歳代で28.1%、男性の20歳代で28.8%、30歳代で26.8%となっており、「町内会や自治会等の地域社会」に若い世代の参加が少ない状況が伺える。

男女の地位の平等感 ④町内会や自治会等の地域社会で【性・年代別】



⑤政治の場で

「政治の場」における男女の地位について、男女ともに高い割合で『男性優遇』と感じている。30歳代では男女間の差が最も大きく、女性が男性よりも『男性優遇』と感じる割合が23.5ポイントほど高くなっている。

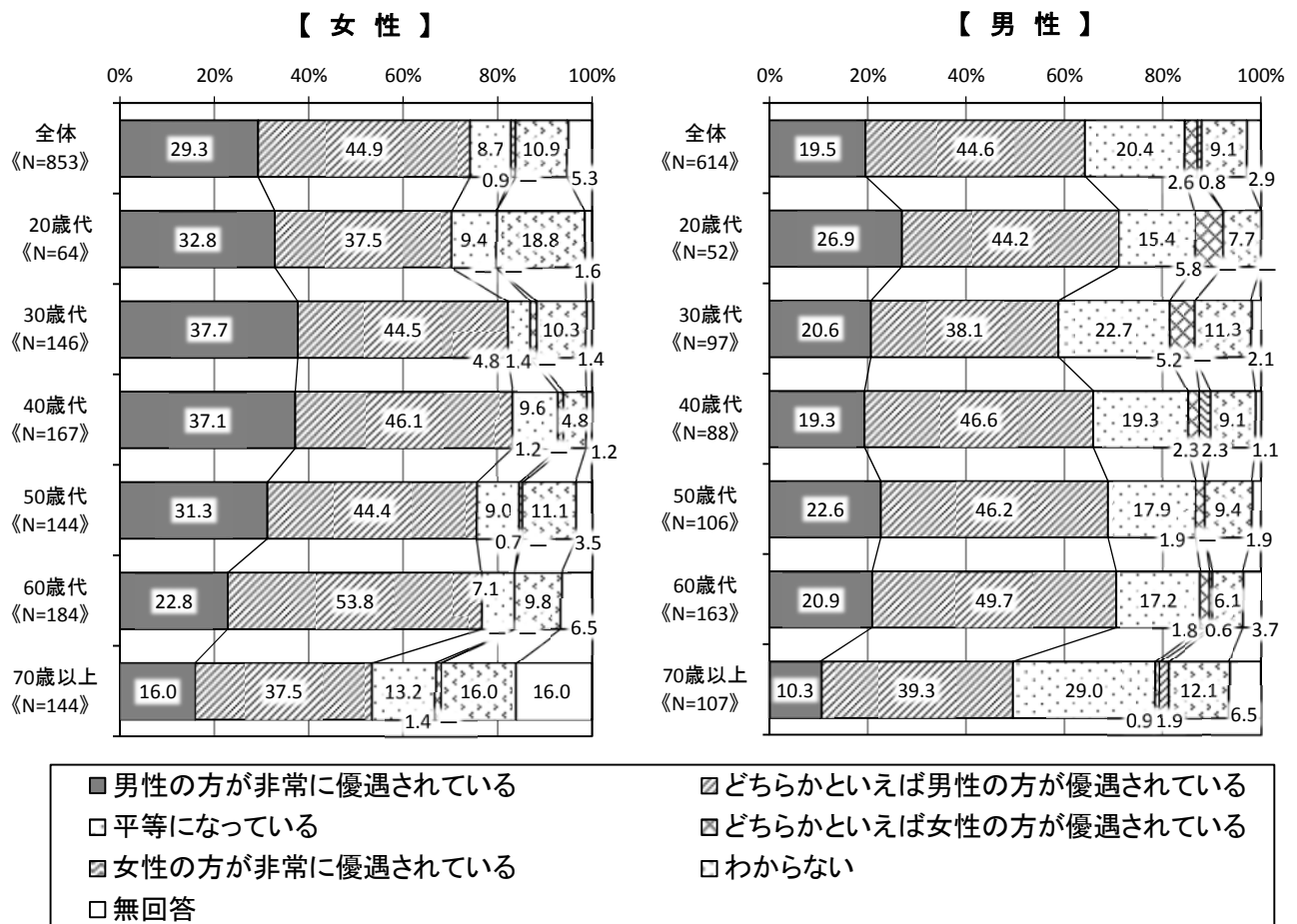
【性・年代別】

「政治の場」における男女の地位について、女性では30歳代と40歳代の8割以上が、男性では20歳代と60歳代の約7割が『男性優遇』と感じている。

男女差については、30歳代で23.5ポイント、40歳代で17.3ポイントほど、女性の方が男性よりも『男性優遇』と感じている。

また、男女ともに、70歳以上では『男性優遇』と感じている割合は低下し、5割前後となっている。

男女の地位の平等感 ⑤政治の場で【性・年代別】



⑥法律や制度の上で

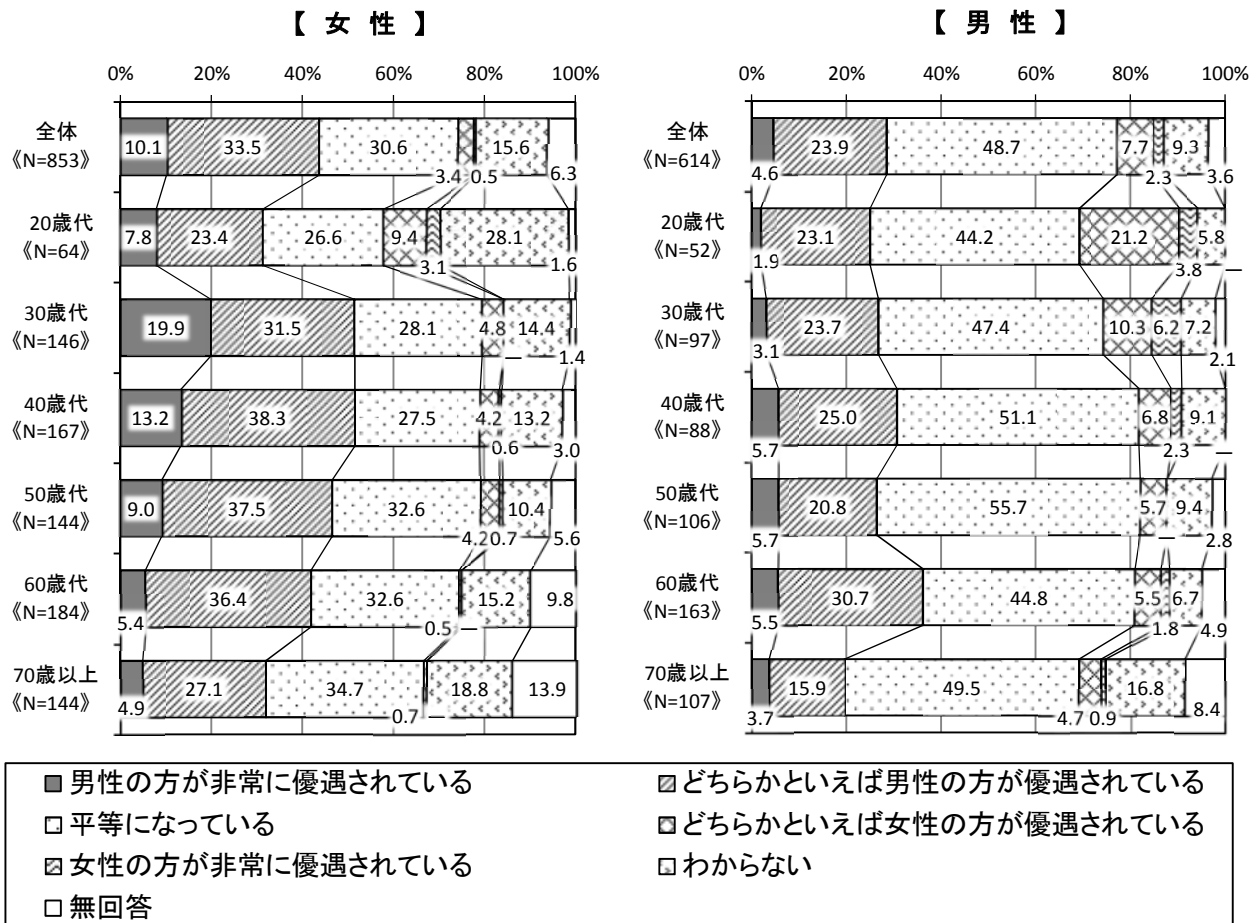
「法律や制度の上」における男女の地位について、すべての年代で、女性の方が男性よりも『男性優遇』と感じており、特に、30歳代男女の意識差は24.6ポイントと大きくなっている。
また、5割弱の男性は『平等』と感じている。

【性・年代別】

「法律や制度の上」における男女の地位について、女性では30歳代と40歳代の5割以上が『男性優遇』であると感じているが、男性では『男性優遇』と感じている割合は3割以下と低く、40歳代と60歳代でわずかに3割を超えている。

また、40歳代と50歳代男性の5割以上が『平等』と感じている。

男女の地位の平等感 ⑥法律や制度の上で【性・年代別】



⑦社会通念・慣習・しきたりなどで

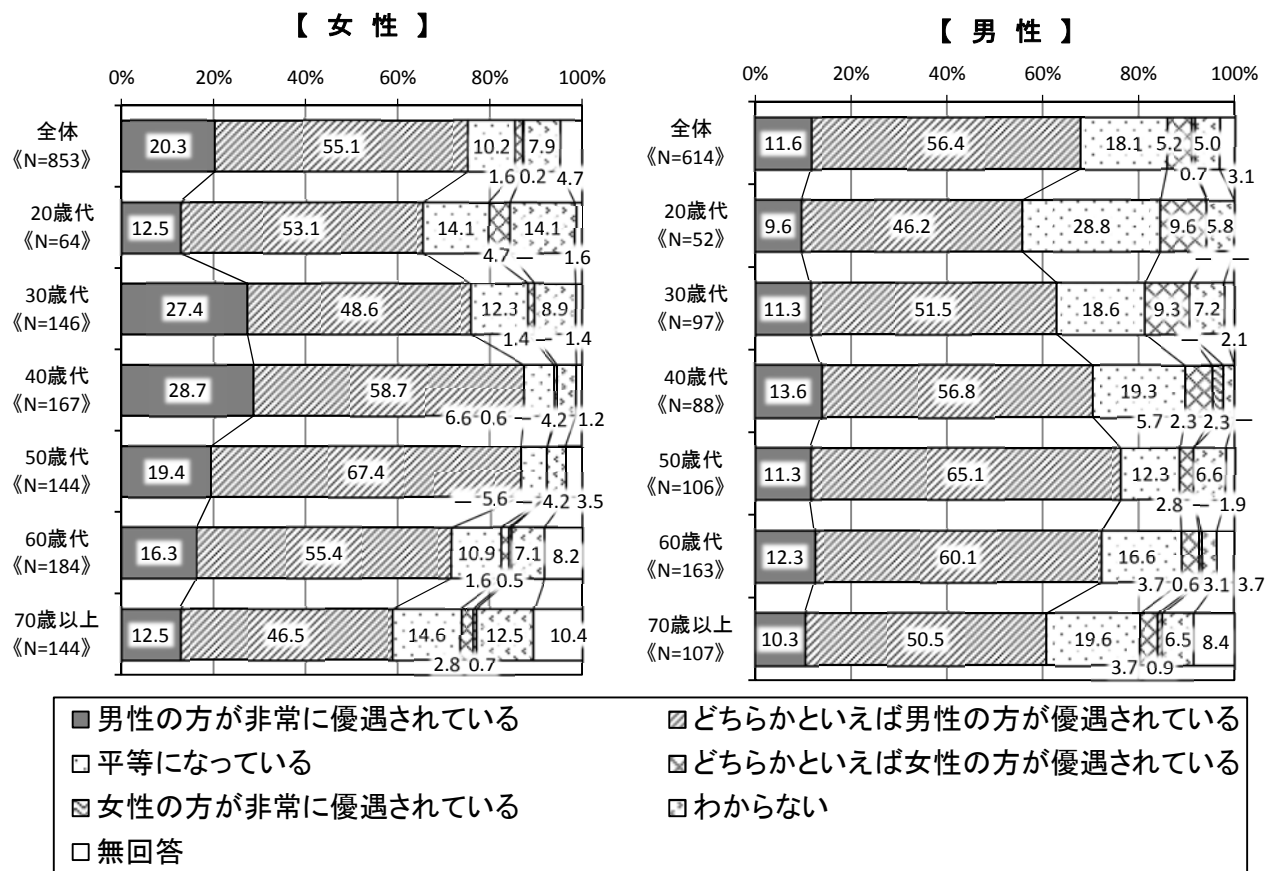
「社会通念・慣習・しきたりなど」について、男女ともに高い割合で『男性優遇』と感じている。

【性・年代別】

「社会通念・慣習・しきたりなど」について、『男性優遇』と感じている割合は、女性は40歳代と50歳代が8割以上と高く、また、男性では40歳代から60歳代が7割以上と高い。

男女差については、40歳代で17.0ポイントほど、女性の方が男性よりも『男性優遇』と感じているが、60歳代と70歳以上では縮小し、ほぼ同じ割合となる。

男女の地位の平等感 ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで【性・年代別】



⑧社会全体で

「社会全体」でみると、30歳代から60歳代女性の7割以上が『男性優遇』と感じている。

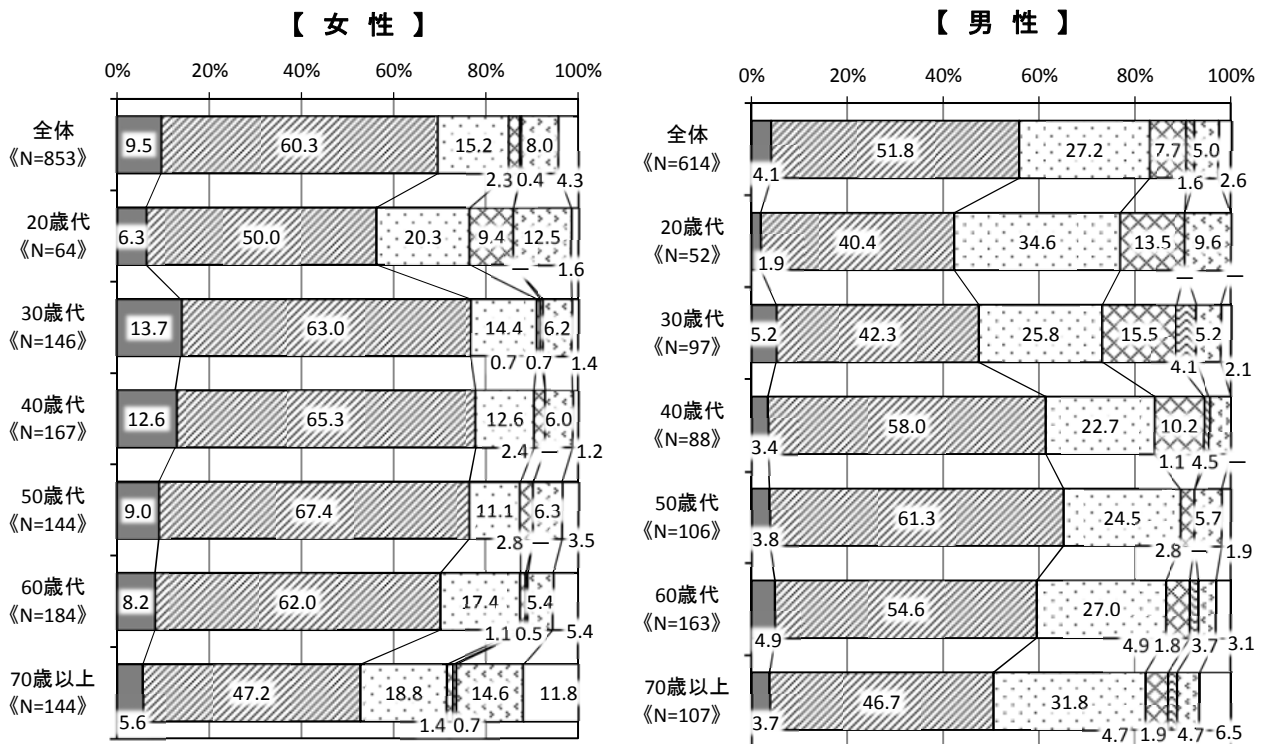
【性・年代別】

「社会全体」について、『男性優遇』と感じている割合は、女性では30歳代から60歳代が7割以上と高く、男性では40歳代と60歳代の約6割以上が感じている。

男女差については、30歳代で29.2ポイント、40歳代で16.5ポイント、20歳代で14.0ポイントの順に、女性の方が男性よりも『男性優遇』であると感じている割合が高い。

70歳以上では縮小し、男女とも、ほぼ5割が『男性優遇』と感じている。

男女の地位の平等感 ⑧社会全体で【性・年代別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等になっている
- ▣ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

【前回調査との比較】

前回調査に比べ、女性はすべての項目、男性は5項目で『男性優遇』と感じている人が減少し、『平等』と感じている人が増加した。

【性別】

前回調査と比較してみると、女性はすべての項目で『男性優遇』と感じる割合が低くなっている。特に、前回調査と差がみられるのは、「④地域社会で」で『男性優遇』が12.8ポイント減少し、『平等』が7.7ポイント増加、次いで「⑥法律や制度の上で」で『男性優遇』が9.7ポイント減少し、『平等』が4ポイント増加、「⑧社会全体で」でも『男性優遇』が8.2ポイント減少し、『平等』が6ポイント増加している。

男性は、8項目中5項目で『男性優遇』が減少している。「⑧社会全体で」で『男性優遇』が7.4ポイント減少し、『平等』が6.6ポイント増加、「⑦社会通念・慣習・しきたりなどで」で『男性優遇』が6.9ポイント減少し、『平等』が6.1ポイント増加、「④地域社会で」で『男性優遇』が6.7ポイント減少し、『平等』が8.4ポイント増加している。

【内閣府世論調査との比較】

内閣府世論調査と比べると、男女とも「社会全体で」、「職場で」、「法律や制度の上で」の3項目で『男性優遇』が減少している。

【性別】

内閣府世論調査と比べると、今回調査で『男性優遇』が減少した項目は、女性では5項目あり、特に減少している項目は、「⑧社会全体で」7.9ポイント、次いで「②職場で」5.4ポイント、「⑥法律や制度の上で」4.8ポイントとなっている。

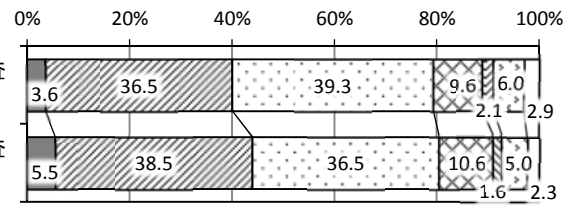
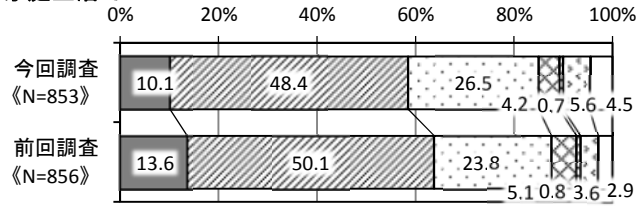
男性は8項目中4項目で『男性優遇』が減少し、特に減少しているのは「⑧社会全体で」8.6ポイント、次いで「⑥法律や制度の上で」4.9ポイント、「②職場で」3.4ポイントとなっている。

男女の地位の平等感【今回調査・前回調査】

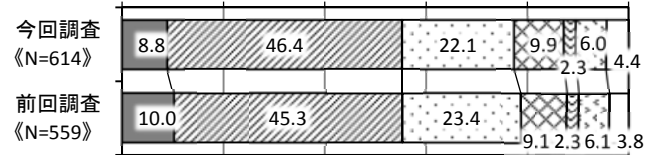
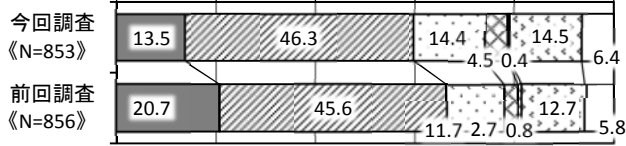
【女性】

【男性】

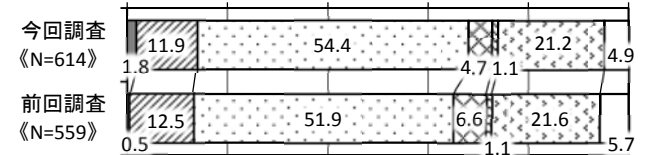
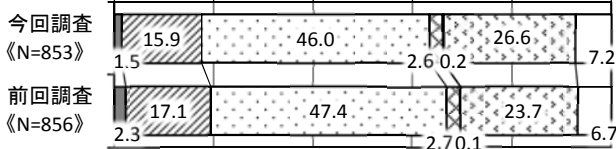
①家庭生活で



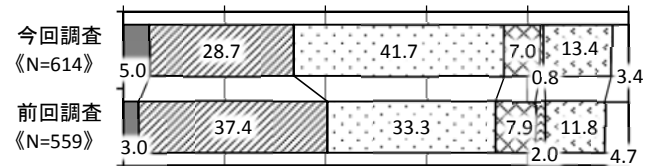
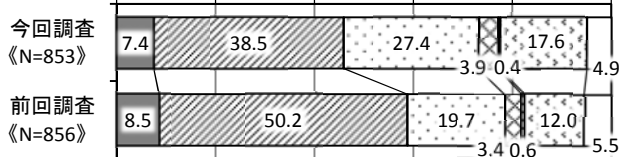
②職場で



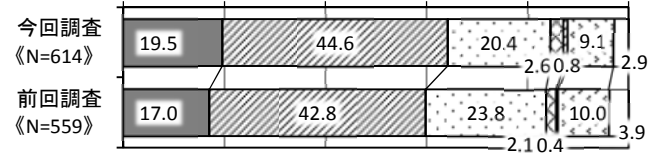
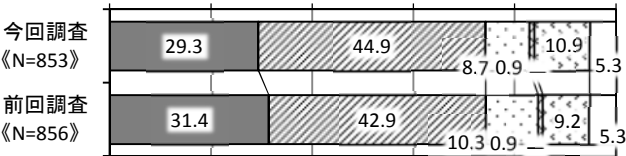
③学校教育の場で



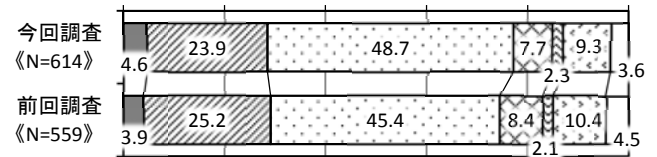
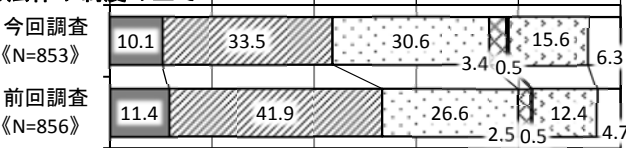
④地域社会で



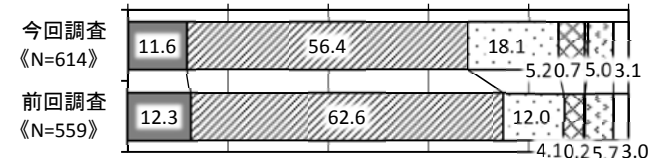
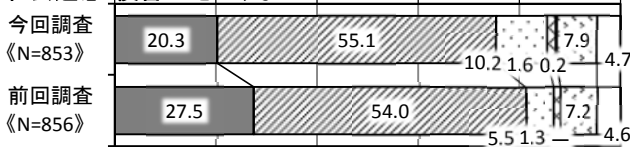
⑤政治の場で



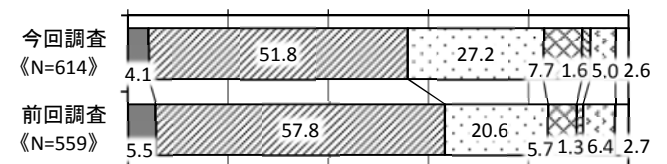
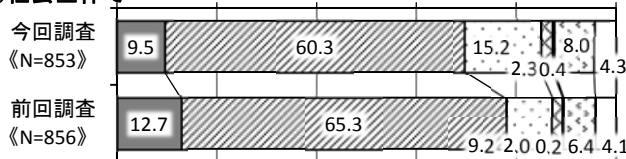
⑥法律や制度の上で



⑦社会通念・慣習・しきたりなどで



⑧社会全体で



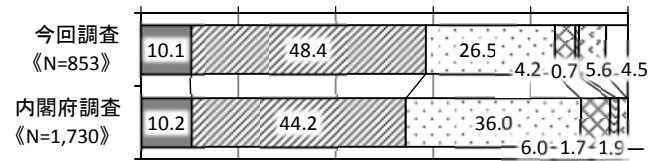
■ 男性の方が非常に優遇されている	▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
□ 平等になっている	▣ どちらかといえば女性の方が優遇されている
▣ 女性の方が非常に優遇されている	□ わからない
□ 無回答	

男女の地位の平等感【今回調査・内閣府調査】

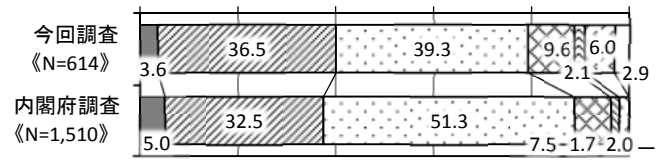
【女性】

【男性】

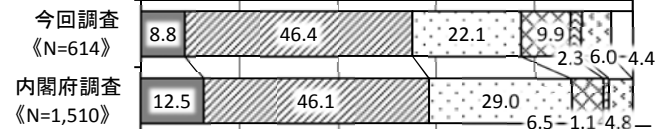
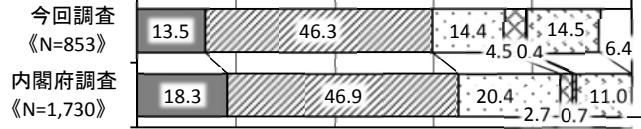
①家庭生活で



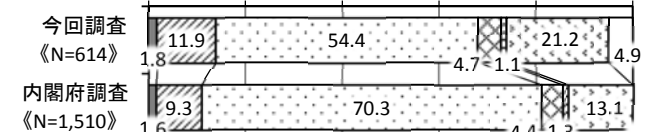
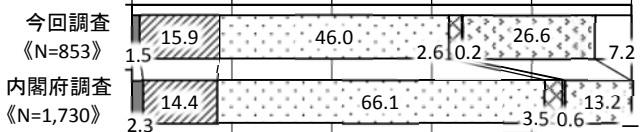
0% 20% 40% 60% 80% 100%



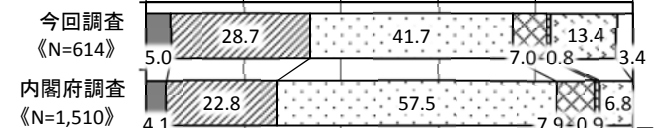
②職場で



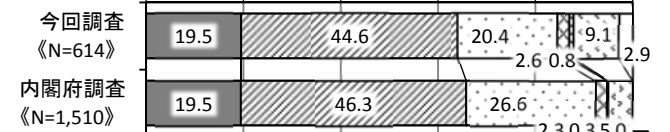
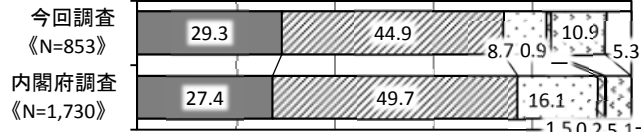
③学校教育の場で



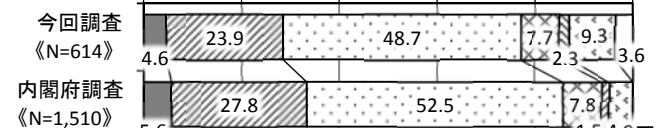
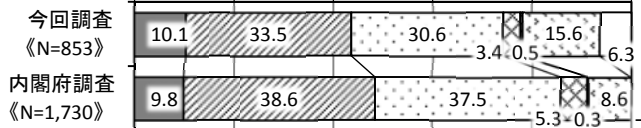
④地域社会で



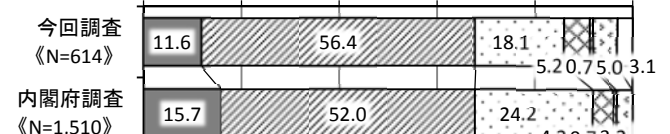
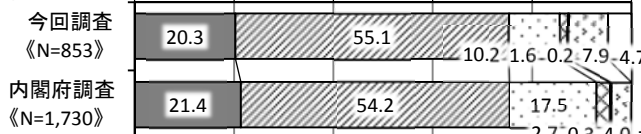
⑤政治の場で



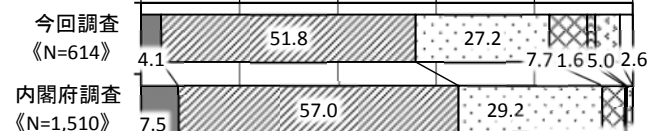
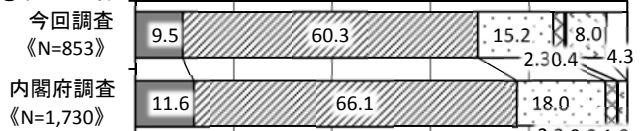
⑥法律や制度の上で



⑦社会通念・慣習・しきたりなどで



⑧社会全体で



- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等になっている
- ▣ 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- ▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▣ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない

(2) 性別役割分担意識

問2. 「男は仕事, 女は家庭」という考え方について, あなたの意見に近いものはどれですか。

「男女とも仕事を持ち, 家庭でも責任を分担するのがよい」が4割以上を占め, 女性では5割以上, 男性でも4割以上を占める。

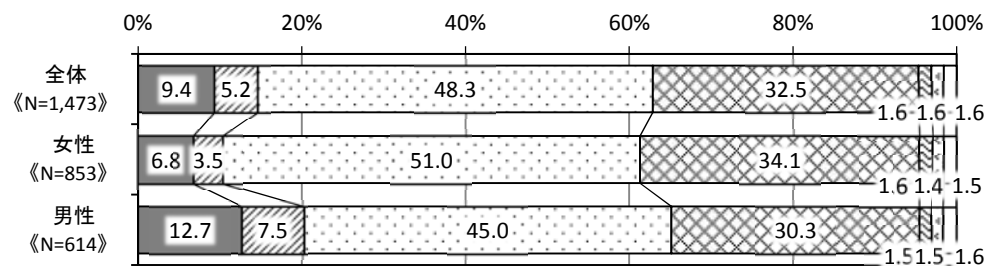
【全体】

「男は仕事, 女は家庭」という考え方について, 「男女とも仕事を持ち, 家庭でも責任を分担するのがよい」が48.3%で最も高い。次に「男女の役割は固定せずに, 男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい」32.5%, 「男は仕事, 女は家庭にいるのがよい」9.4%, 「男女とも仕事を持ち, 家庭のことは女性が責任をもつのがよい」5.2%と続いている。

【性別】

「男女とも仕事を持ち, 家庭でも責任を分担するのがよい」の割合は, 女性が51.0%, 男性が45.0%と, 男女ともに最も高く, 女性の方が男性よりも6.0ポイント高くなっている。また, 「男女の役割は固定せずに, 男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい」の割合は, 女性が34.1%, 男性が30.3%で, 女性の方が男性よりも3.8ポイント高くなっている。

性別役割分担【全体・性別】



- 男は仕事, 女は家庭にいるのがよい
- 男女とも仕事を持ち, 家庭のことは女性が責任をもつのがよい
- 男女とも仕事を持ち, 家庭でも責任を分担するのがよい
- 男女の役割は固定せずに, 男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい
- その他
- わからない
- 無回答

【性・年代別】

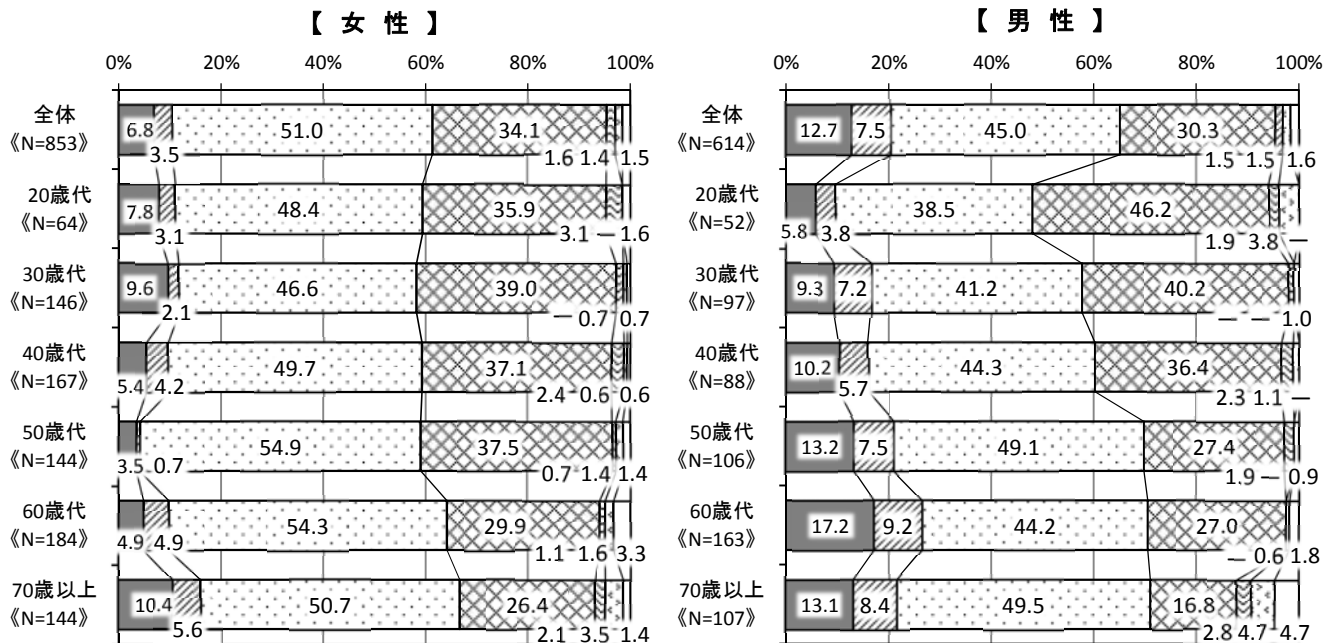
70歳以上の女性、40歳代から70歳以上の男性は、「男は仕事、女は家庭」の割合が1割以上と高い。

「男女とも仕事を持ち、家庭でも責任を分担するのがよい」の割合は、女性では50歳代から70歳以上で5割を上回っており、男性では50歳代と70歳以上で約5割と高くなっている。

また、「男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい」の割合は、20歳代と30歳代男性で4割を上回っている。

「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」では、女性では70歳以上が、男性では40歳代から70歳以上で1割を上回っている。

性別役割分担【性・年代別】



- 男は仕事、女は家庭にいるのがよい
- ▣ 男女とも仕事を持ち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい
- 男女とも仕事を持ち、家庭でも責任を分担するのがよい
- ▤ 男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい
- ▥ その他
- わからない
- 無回答

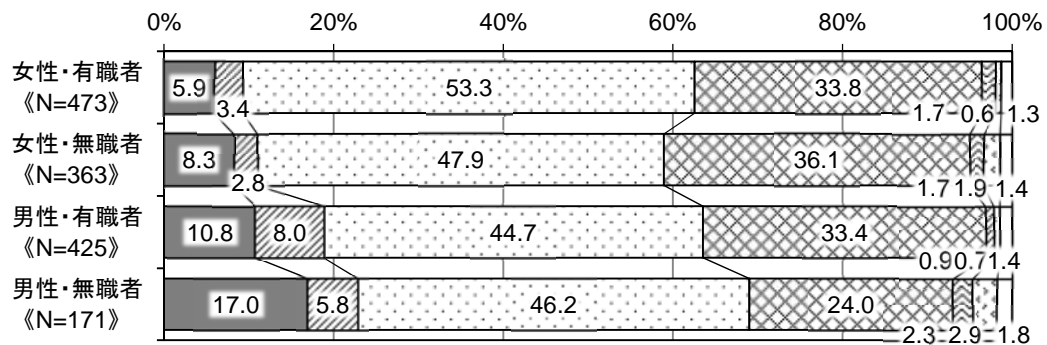
【性・職業の有無別】

男女とも、無職の方が有職者よりも「男は仕事、女は家庭」との意見がわずかに多い。

女性の職業の有無で構成比の差が大きいのは、「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」で有職者が無職者よりも5.4ポイント上回っている。反対に「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」で2.4ポイント、「男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい」で2.3ポイント、無職者が有職者よりも上回っている。

男性の職業の有無で構成比の差が大きいのは、「男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい」で有職者が無職者よりも9.4ポイント上回り、反対に「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」で無職者が有職者よりも6.2ポイント上回っている。

性別役割分担【性・職業の有無別】



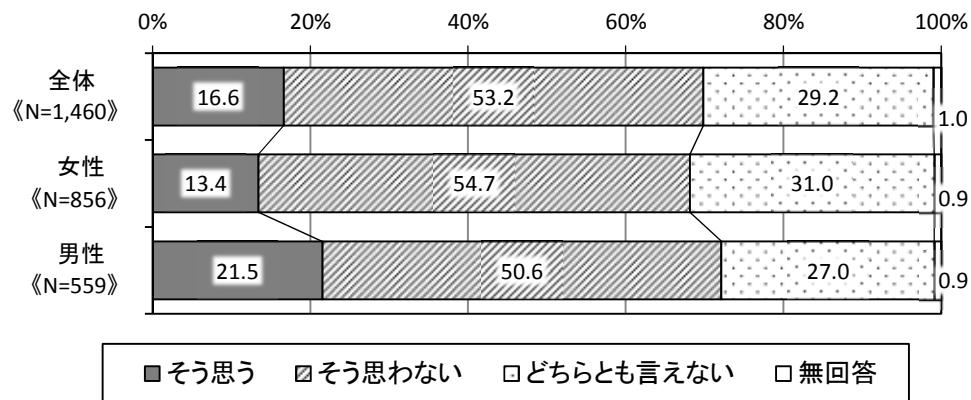
- 男は仕事、女は家庭にいるのがよい
- ▣ 男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい
- 男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい
- ▣ 男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい
- ▣ その他
- わからない
- 無回答

参考

【前回調査】[問：夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである]

「そう思わない」が53.2%で最も高く、性別でも女性54.7%、男性50.6%で高くなっている。
また、「そう思う」は男性が女性よりも8.1ポイント高い。

性別役割分担意識【前回調査】

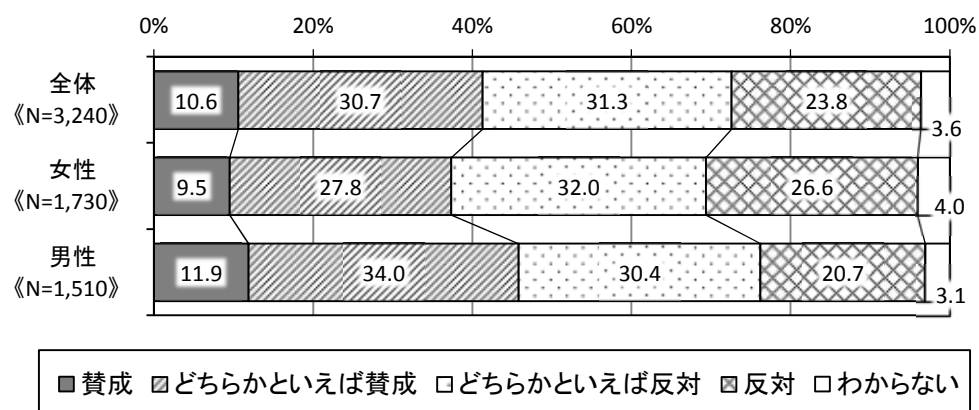


【内閣府調査】[問：夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである]

「反対」（どちらかといえば反対+反対）は55.1%、「賛成」（賛成+どちらかといえば賛成）は41.3%となっている。

性別でも「反対」の割合が高く、特に女性は「反対」が「賛成」よりも21.3ポイント上回っている。

性別役割分担意識【内閣府調査】



(3) 性別による子育て意識

問3. あなたは自分の子どもをどのように育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いると仮定して選んでください。

男性の方が女性よりも『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい』と思っている割合が高い。

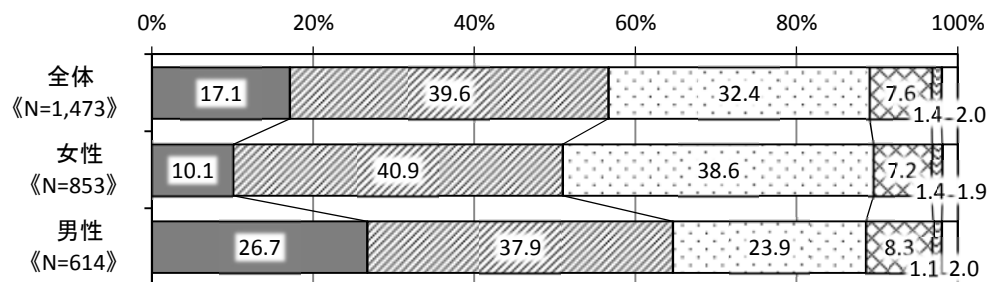
【全体】

子どもの育て方について、『どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい』が39.6%で最も高い。次いで「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」32.4%、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい』17.1%、「まったく性別にとらわれずに育てたい」7.6%となっている。

【性別】

子どもの育て方について、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』（どちらかといえばを含む）の割合は、男性64.6%、女性51.0%となっており、男性が女性よりも13.6ポイント高くなっている。

性別子育て意識【全体・性別】



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- ▨どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい
- ▨まったく性別にとらわれずに育てたい
- ▨わからない
- 無回答

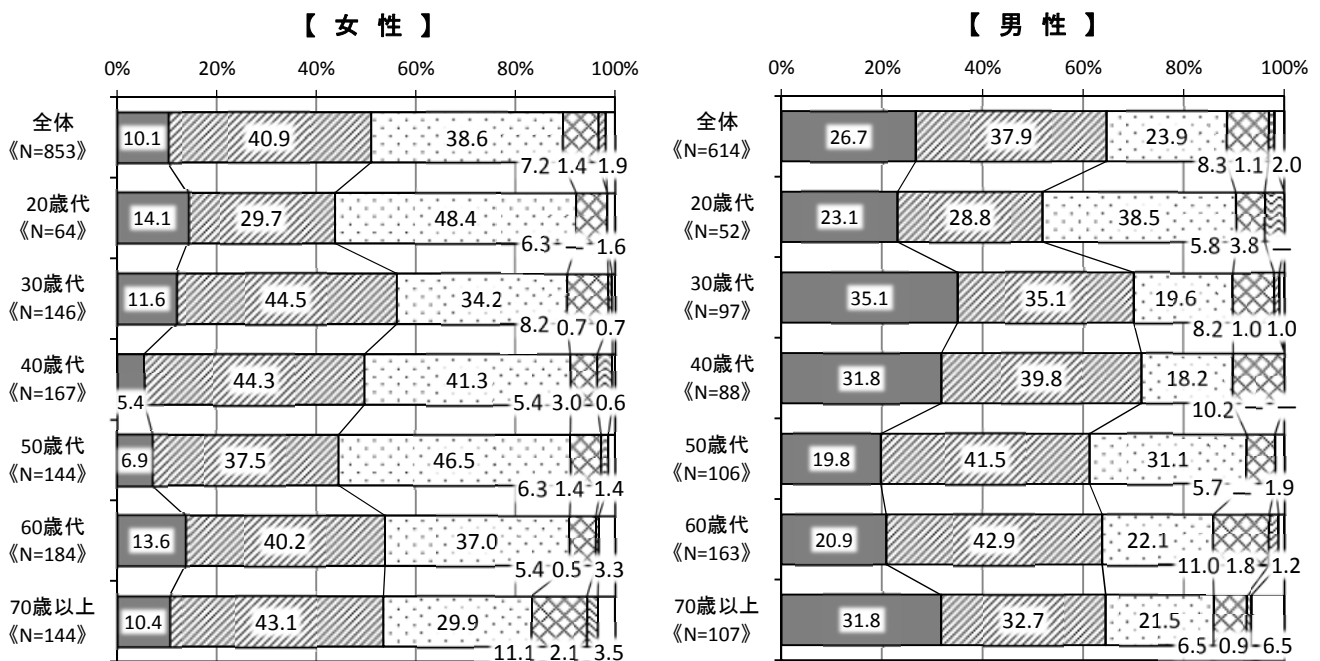
【性・年代別】

男女ともに30歳代と50歳代で「性別にとらわれずに育てたい」と思う割合が高い。

『男の子は男らしく、女の子は女らしく』（どちらかといえばを含む）の割合は、女性では30歳代と60歳代以上で5割を超え、男性では30歳代と40歳代で7割を超えて高くなっている。

また、『性別にとらわれずに育てたい』（どちらかといえば+まったく）は、男女ともに20歳代と50歳代で割合が高くなっている。

性別子育て意識【性・年代別】



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- ▨ どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい
- ▩ まったく性別にとらわれずに育てたい
- わからない
- 無回答

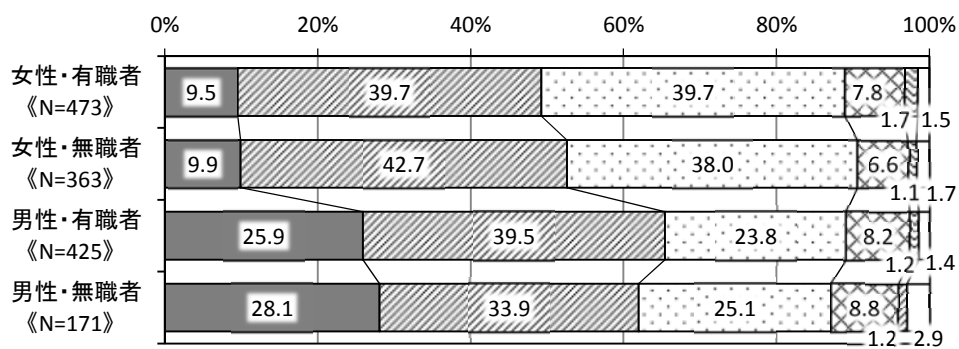
【性・職業の有無別】

『どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい』では、男性の有職者が無職者よりも5.6ポイント上回っている。

『男の子は男らしく、女の子は女らしく』（どちらかといえばを含む）が、女性は無職者が有職者よりも3.4ポイント、男性は有職者が無職者よりも3.4ポイント高くなっている。

『性別にとらわれずに育てたい』（どちらかといえば+まったく）と考える割合は、女性では、有職者で5割弱、無職者で4割強あり、男性では、有職・無職に係わらず約3割となっている。

性別子育て意識【性・職業の有無別】



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- ▨どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい
- ▨まったく性別にとらわれずに育てたい
- わからない
- 無回答

【性別役割分担意識と子育て意識別】

性別役割分担意識をもっている人は、子育てにおいても『「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい』という意識が表れている。

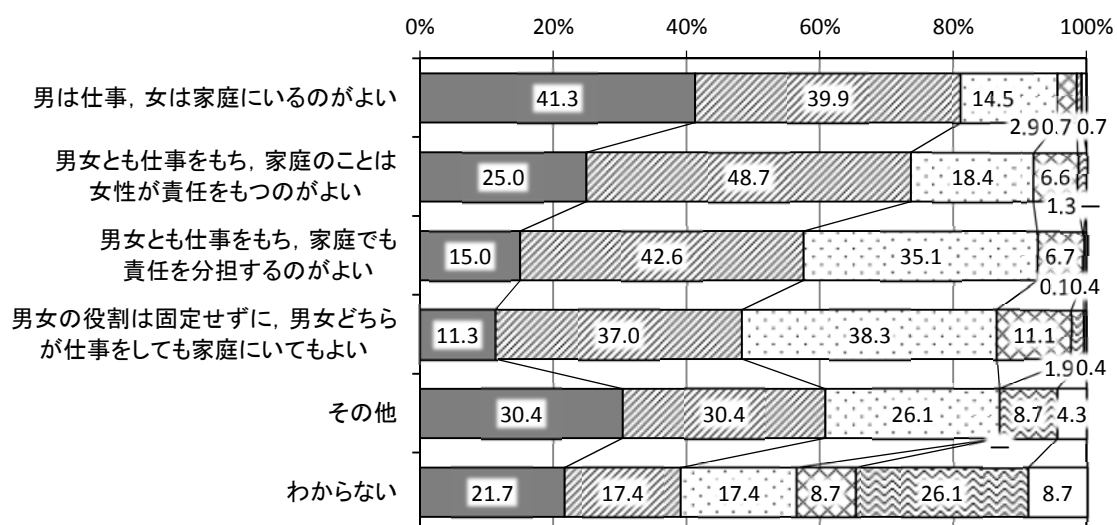
「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」という性別役割分担意識をもっている人は、『「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい』が最も高く 41.3%、『どちらかといえば』を合わせると 8割以上になっている。

「男女とも仕事を持ち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい」と「男女とも仕事を持ち、家庭でも責任を分担するのがよい」では、『どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい』がともに4割以上と高くなっている。

「男女の役割は固定せずに、男女どちらが仕事をして家庭にいてもよい」では「どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい」が最も高く 38.3%、「まったく性別にとらわれずに育てたい」を合わせると 49.4%となる。

性別役割分担を強く意識している人は、子育てにおいても『「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい』との意識が表れている。

性別役割分担意識別と子育て意識【全体】



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- ▣どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい
- ▣まったく性別にとらわれずに育てたい
- ▣わからない
- 無回答

【前回調査との比較】

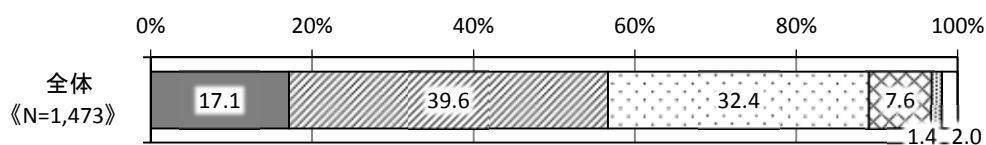
前回調査と比べ、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに育てたい』と思う人の割合が増えた。

「男（女）らしく育てたい」と思っている人は、今回調査で 56.7%，前回調査では 32.3%と今回調査が前回調査よりも 24.4 ポイント上回っている。

反対に「性別にとらわれずに育てたい」と思っている人は、今回調査 40.0%，前回調査 45.2%で 7.7 ポイント今回調査が前回調査よりも下回った。

今回調査	前回調査	分析表記
「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい	そう思わない	男(女)らしく育てたい
どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい		
どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい	そう思う	性別にとらわれずに育てたい
まったく性別にとらわれずに育てたい		

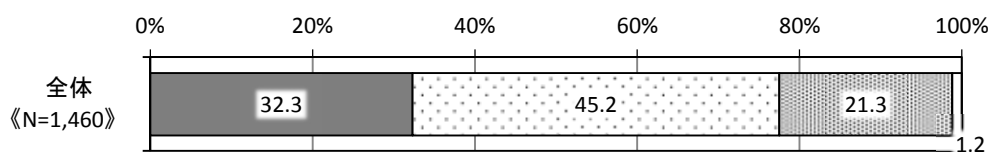
性別子育て意識【今回調査】



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに育てたい
- どちらかといえば、性別にとらわれずに育てたい
- まったく性別にとらわれずに育てたい
- わからない
- 無回答

性別子育て意識【前回調査】

問：子どもの教育やしつけ、接し方を男の子と女の子で区別しない



- そう思わない
- そう思う
- どちらとも言えない
- 無回答